

**平成23年度**  
**財団法人山口市文化振興財団**  
**事業計画**

**平成23年3月**

## I 基本目標

山口市から管理運営の指定を受ける山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて各施設の持つ特性を生かしながら、さまざまな文化に触れる機会、参加する機会などを提供する企画事業を実施し、山口市における文化振興の一翼として、文化を育むまちづくりに寄与するよう努める。

## II 基本方針

市民自らが多様な文化活動へ参加し、芸術文化を享受できる文化環境づくりを目指し、鑑賞、参加型及び創造型の企画事業を展開するとともに、広く文化に関する情報を収集し提供する。また、市民の自主的かつ創造的な文化活動を促進、支援するための事業を行う。

なお、これらの事業を実施するにあたって、単年度計画に基づく事業計画の策定及び事業の実施という形態のみでなく、長期的視点からの事業計画や新たな発想による事業展開をめざすとともに、これに基づく具体事業の年次的実施による事業内容の充実に向けた取り組みを推進する。

また、平成23年4月1日より公益財団法人に移行することを踏まえ、公益的役割を担う機関としてよりいっそうの事業充実に向けた取り組みを進める。

## III 個別事業計画

寄附行為第4条に掲げる6事業のうち、企画事業、育成・支援事業、調査研究事業、情報収集・提供及び施設の管理運営受託事業については、以下のとおりとする。

### 1 企画事業

当財団が所管する山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、各施設の持つ特性を生かしながら文化振興に関する各種企画事業を実施し、文化に触れる機会、参加する機会などの拡充を図るとともに、事務局においては、幅広い市民の皆様が楽しめる娯楽性の高い事業の企画展開を図る。

#### (1) 山口市市民会館

山口市市民会館開館 40 周年にあたる本年は、記念事業として、オーケストラや演劇公演など質の高い鑑賞機会の拡充を目指すとともに、市民参加型のコンサートの開催など市民に多様な芸術文化の鑑賞機会を提供する。

## (2) 中原中也記念館

中也の故郷と、故郷への想いと、その想いが込められた詩を紹介する常設テーマ展や企画展、特別企画展を実施するとともに、中也の人と作品を分かりやすく解説し、理解を深める一助として、講演会や学芸担当職員による読書会を開催する。また、中也が好んだ〈朗読〉をテーマにした市民参加型イベント〈生誕祭〉を実施する。

## (3) 事務局

山口市民会館、山口情報芸術センター等、市内の文化施設を活用し、広域的かつ幅広い年齢層を対象にしたクラシック音楽、ポピュラー音楽などのコンサート、舞台芸術などの公演を実施する。

## (4) 山口情報芸術センター[YCAM]

滞在制作による YCAM オリジナルの発信力ある事業を展開するとともに、その成果を教育普及事業等により地域にフィードバック、もって人材育成に寄与することを目指す。

また、活動全体を広く市民に普及していくことにも力を入れ、市民の中での認知度・存在感を高めていくことを目指す。

## 2 育成・支援事業

財団友の会会員へのサービス向上を図るとともに、組織の拡充に努める。

また、市民が日常的に文化に触れ、あるいは文化活動に取り組む機会の拡充を図るため、市民の自主的な文化活動に対し助成金を交付し、側面的に支援する事業を継続実施する。

### (1) 友の会の組織化と運営

財団法人山口市文化振興財団友の会「Ars Nova Yamaguchi」(呼称:エニー)の会員について、既加入者の継続加入及び新規加入の促進を図る。

#### ① 会員期間

入会日から翌年の入会月末まで

#### ② 会員種別

種 別	対象者	入会金(更新時には不要)	年会費
個人会員	個人	500円	1,500円

③ 会員特典

- ・ チケットの先行予約及び割引購入
- ・ 情報誌(4・7・10・1月発行)及び催物案内(毎月末)の定期送付
- ・ 入会時及び更新時に YCAM シネマ及び中原中也記念館の招待券進呈
- ・ 協賛店での優待あり

④ 会員数の推移(件数)

種 別	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
個人会員	837	871	1,018	882	841	845
ファミリー会員	109	106	—	—	—	—
団体会員	3	4	—	—	—	—
学生会員	56	26	—	—	—	—
計	1,005	1,007	1,018	882	841	845

(2) 市民文化活動支援事業助成金交付事業

営利を目的としない市内の個人及び団体等が行う文化事業に助成支援するため、平成9年度に創設した「財団法人山口市文化振興財団市民文化活動支援事業」を継続実施する。

また、市民に対し、情報誌や市報への掲載等による広報を行い、申請件数の増加を図る。

① 募集期間

平成22年3月1日～3月31日

② 助成金額

一事業につき50万円を上限

③ 審査方法

審査委員会の設置、開催

④ 申請及び採択件数の推移

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
申請件数	11	18	18	24	24	18
採択件数	8	15	16	18	22	17

### 3 調査研究事業

(1) 中原中也研究

関係資料の調査、収集、複製の製作等により、中原中也研究を推進する。

(2) 自主企画事業に関する調査及び研究

公演ごとのアンケート調査を随時行い、事業企画に対する市民ニーズ等の調査研究を進める。事業成果のまとめとしてドキュメント制作、展示・公演記録や、ワークショップパッケージ等のパブリシティに関わる作業を行う。

### 4 情報収集・提供事業

(1) 情報誌「any」の刊行

平成9年1月から刊行している情報誌を年4回(季刊)、継続刊行する。

(2) 山口市民会館催し物案内の発行

市民会館における催し物を紹介案内する広報紙を月1回、継続発行する。

(3) 中原中也記念館館報第17号の発行

活動記録、寄稿文等を掲載する館報を年1回、継続発行する。

(4) 中原中也研究第16号の刊行

研究論文、エッセイ、シンポジウム記録等を掲載する研究誌を年1回、継続刊行する。

(5) 山口情報芸術センター催し物案内の発行

山口情報芸術センターにおける催し物を紹介案内する広報物を継続的に発行する。

(6) ホームページの充実

財団及び山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市民会館のホームページにより、イベント情報を随時発信する。また、平成19年4月からは財団の主催・共催公演に関して、財団及び山口情報芸術センターのホームページからもチケット予約ができるシステムを整備、友の会への入会・更新もホームページ上から手続き可能となっている。

### 5 施設の管理運営受託事業

当財団が所管する山口市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターの管理運営において、「安全、安心、快適」に利用していただけるよう適切な業務を行います。

また、山口市民会館、山口情報芸術センターにおいては、山口市条例に基づいた施設の貸与事業を行い、利用者のニーズを踏まえた施設運営に努めます。

## 6 企画事業一覧

区分	事業名	開催時期	内容
山口市民会館	NHK公開録画 BS日本のうた	平成23年5月12日(木) 18:40 開演 於:山口市民会館大ホール	NHK山口放送局の開局70周年と、山口市民会館の開館40周年を記念した、衛星第2テレビの番組「BS日本のうた」の公開録画。
	山口市民会館 開館40周年記念演奏会 ドレスデン・フィルハーモニー 管弦楽団	平成23年6月24日(金) 18:30 開演 於:山口市民会館大ホール	山口市民会館開館40周年記念演奏会及び、「日独交流150周年2010/2011」参加事業。 宮廷文化の典雅と市民生活の進取の気性をあわせ持つドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団による演奏会。
	山口市民会館 開館40周年記念演劇公演	平成23年10月～12月	山口市民会館開館40周年を飾るにふさわしい演劇公演の実施。
	第16回 ニューイヤーバンド フェスティバル2012	平成24年1月22日(日) 10:00 開演予定 於:山口市民会館大ホール	山口県吹奏楽連盟加盟団体が、普段の練習成果を発表するとともに、他団体の演奏を聴くことにより、演奏技術ならびに音楽の表現力の向上を深め、あわせて各団体の親睦を図るためのコンサート。
	第39回市民コンサート ～あの名演奏をもう一度～	平成24年3月20日(火・祝) 13:00 開演予定 於:山口市民会館大ホール	各年度内に開催された各種コンクールにおいて優れた成績を収められた方々や、熱心に音楽活動を続けている方々を招いての“アンコールコンサート。”
事業企画	舞台「おもいのまま」	7月23日(土)・24日(日)	石田えり、佐野史郎といった個性のかつ高い演技力を備えた俳優陣が出演する新作の演劇公演を上演。演出を手掛ける飴屋法水は、一旦休止していた演劇活動を2007年から再開。オーディションで選ばれた現役女子高生18人を起用した『転校生』(平田オリザ作)など、次々に話題作に挑み、どの作品も好評を博している。ステージと客席が近い山口情報芸術センターの舞台空間の特性を存分に味わいながら、ストーリーの展開を楽しんでいただくと同時に、目の前で役者が演じる緊迫感や観客と舞台が一体となるライブ感、舞台芸術がもつ表現の幅広さを体感していただく機会を市民に提供する。

区分	事業名	開催時期	内容
事業企画	浜田真理子+小泉今日子 「マイ・ラスト・ソング」	8月6日(土)・7日(日)	テレビドラマのディレクター、文筆家として数多くの名作を遺した演出家・小説家、久世光彦が「あなたは最後に何を聴きたいか?」というテーマで晩年まで連載を続けたエッセイを下地に企画されたコンサート「マイ・ラスト・ソング」。島根県出身のシンガーソングライターであり、2010年は山口情報芸術センターでワンマンライブを行った実績のある浜田真理子と、映画女優・歌手として幅広い世代から支持を集める小泉今日子が出演する。昭和から平成へ移行する時代の中、久世光彦が「歌」に求めた想いとは何だったのか。昭和歌謡、スタンダードなど時代を照射する「歌」の数々が登場し、浜田真理子のピアノ弾き語り、女優・小泉今日子の朗読により、久世光彦が「歌」に込めた想いや「歌」がもつ力を伝えていく。
	ベルリンフィル 12 人の 金管奏者たち	11月21日(月)	世界に名だたるオーケストラのひとつ「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団」より金管奏者 12 名を招聘し、コンサートを開催する。昨年度は、同じベルリンフィルからチェリストを12名招聘し、世界トップクラスの演奏者によるコンサートを実施、大変好評を博した。今回はチェロとはまた違ったアンサンブルを楽しんでいただき、また、金管ならではのプログラムで、オリジナル曲から映画音楽など幅広いレパートリーを聴いていただく。誰もを魅了し納得させる実力の高い演奏で、音楽の魅力を存分に楽しんでもらう機会を提供する。
	劇団前進座 創作歌舞伎「髪飾不思議仕掛」	12月18日(日)	質の高い舞台作品を親子で観劇する機会を提供するため、親子向けの舞台事業に関して実績のあるNPO 法人こどもステーション山口と年 1~2 本舞台作品を共同で開催。今年度も、長い歴史のなかで優れた作品を数々生み出し、毎年全国各地で公演を続ける劇団前進座を招聘し、子どもだけではなく大人もしっかり楽しめてかつ感動を呼ぶ舞台公演を上演する。作品は、歌舞伎ならではの美しい所作など伝統文化の表現方法を現代に伝える前進座ならではのオリジナル創作歌舞伎「髪飾不思議仕掛」。事前にはワークショップも実施し、歌舞伎について、あるいは本作品の魅力をより深く理解していただくとともに、より一層舞台公演への関心を高めていただく機会を提供する。
	ミニコンサート	3月	山口市文化振興財団では、オーケストラやアンサンブルなどのクラシック音楽、あるいはジャズやポップス、または山口情報芸術センターで行われる電子音楽や現代音楽など、幅広い音楽事業を展開している。そんな音楽事業を、普段コンサートやライブという形でホールに足を運んで音楽を聴く機会のない人たちにも、もっと気軽に楽しんでもらう機会を提供するため、無料のミニコンサートを企画・実施。これまでも東京都交響楽団の金管奏者など一流のプロの演奏家を招いて、市内数か所で開催し、小さな子どもから年配者を含めた幅広い年代の市民に楽しんでいた。今回も演奏家の存在を身近に感じられるミニコンサートという形で、音楽を聴くことの楽しさと奥深さを体感していただく機会を提供する。

区分	事業名	開催時期	内容
中原中也記念館	第8回常設テーマ展示 「これが私の故里だ」	平成23年2月16日(水) ～ 平成24年2月12日(日) ※特別企画展期間中は除く	<p>故郷への思いは、誰もが持つものです。生まれ育った土地は、幼い頃の思い出とともに特別な場所となります。</p> <p>中原中也も故郷に特別な思いを抱いていました。本州の西端・山口で、医家である中原家の長男として生まれた中也。湯田温泉という遊楽街であるために、外で遊ぶことを禁じられたり、神童と言われるほど、成績優秀であったのに、文学に夢中になって中学3年で落第したり…。</p> <p>中也の残した作品に郷土色を見つけるのは容易ではありませんが、大内文化が栄え、毛利家が支配し、明治維新に深く関わったこの土地の影響は、どこかしらにあるのではないのでしょうか。</p> <p>山口は、中也が少年期を過ごし、飛び立つ思いで離れた後も、強く懐かしみ、晩年には移り住もうとしていた場所です。</p> <p>中也の故郷と、故郷への思いと、その思いが込められた詩を紹介します。</p> <p>第9回常設テーマ展示『『在りし日の歌』まで』(仮) 平成24年2月15日～平成25年2月下旬</p>
	特別企画展 「雑誌『四季』と中原中也—孤高な嘆き」	9月1日(木)～ 11月6日(日)	<p>「四季」は昭和8(1933)年5月に堀辰雄によって創刊された雑誌です。一度中断しますが、昭和9年10月、装いを新たに復活し、昭和19年6月の第81号まで続きました。また、戦後も何度か発行されました。主要な同人としては、堀、萩原朔太郎、室生犀星、三好達治、丸山薫、立原道造、津村信夫、神保光太郎の名が挙げられます。</p> <p>中也は、昭和8年7月から死去した昭和12年10月まで、ほぼ毎号にわたり作品を発表しました。中也の死後は、昭和12年12月号に追悼特集が出ました。</p> <p>一度も編集に参加することなく、同人の集まりなどにもあまり顔を出しませんでした。中也にとって「四季」は、「文学界」「歷程」とともに、主要な発表の場でした。</p> <p>この展示では、堀や立原らの直筆資料を通じて、「四季」における中也の位置、また、同人たちと中也の関係を浮き彫りにします。</p>
	企画展	年間 (4～5ヶ月ごとに展示替え)	<p>折々にテーマを設けて、中也の世界のさまざまな側面を紹介する企画展。</p> <p>1/26～4/17 企画展Ⅲ「中也が読んだ本」 4/20～8/28 企画展Ⅰ「宮嶋康彦—中原中也に訣別 白と黒の振幅の果てに」 11/9～H24 4/15 企画展Ⅱ「中也の母・フク」</p>
	公開講演	第1回 9月17日(土) 第2回 未定	<p>「中原中也の会」との共催により、唐十郎が「中原中也と演劇」(仮)について講演。</p> <p>詩人・弁護士・評論家の中村稔による講演(内容未定)。</p>
	中原中也を読む会	毎月第4金曜日	<p>教育普及事業として学芸担当職員による中也詩を中心とした読書会を開催。</p>

区分	事業名	開催時期	内容
山口情報芸術センター	“Beyond the sunbeam through trees(木漏れ日の向こうに)” [平川典俊+ミヒヤエル・ローター+安藤洋子による新作委嘱インスタレーション]	5月28日(土)~8月21日(日)	映像および全体ディレクションとして、つねに表象の背後にある社会性や人間の自由意志を追求し、写真、映像、映画、パフォーマンス、造形作品などメディアを問わない活動を繰り広げるアーティスト平川典俊氏(NY 在住)、サウンド/音楽ディレクションに、ジャーマンロックの伝説的なバンド「NEU!」を立ち上げたミヒヤエル・ローター氏(ハンブルク在住)、ダンスディレクションに、フランクフルトを中心に世界の最先端ダンス表現を追求する活動するフォーサイスカンパニーの中心的なダンサーの1人である安藤洋子氏(フランクフルト在住)を迎え、新作インスタレーションを制作・発表する。
	ラボ・アクト	1)9月17日(土)~12月25日 2)12月4日~3月末	「視線入力技術」に注目したプロジェクト。視線の動きを緻密なセンシングプログラムでデータ検出し、さまざまなアウトプットに応用使用する。視線をインターフェース化するというコアなメディア技術をベースに研究を行い、一般市民が楽しめる体験型デバイス、インスタレーション、ワークショップなどに発展させていく。 視線によって絵を外部に描くことができるザカリー・リバーマンによる「EyeWriter」、視線を可視化し、その動きによって視線で2者がコミュニケーションを図る「Molecular Informatics」のリメイク版を、体験ワークショップ・レクチャー・インスタレーションなどの形式で一般参加者に体験してもらい、新しい技術のあり方、オープンソースとしてのシェア(技術共有公開)の思想、社会福祉や環境学への応用事例などを、ストーリー性も交えてわかりやすく紹介する。レクチャー&ディスカッションでは一般市民にも意見交換の場に参加してもらう。  1)ザカリー・リバーマン「EyeWriter」 2)三上晴子「モレキュラー・インフォマティクス-視線のモルフォロジー」改訂版
	メディアレクチャー	10月23日(日)	社会学者・メディア関係者の専門家を招聘し、数年間のプランで連続レクチャーをおこなう企画。現在の情報化社会が影響を及ぼす様々な領域[社会学、物理科学、環境学など]への分析と発展性の抽出を独自の視点によって分析してもらい、これからの新たなローカルの価値の発見/グローバルへの未来のあり方を、一般市民、参加者に向けてレクチャーする。
	sound tectonics(サウンドテクトニクス)	1) sound tectonics #9 5月28日(土) 2) sound tectonics #10 9月17日(土) 3) sound tectonics #11 11月5日(土)	YCAM の特徴でもある最先端機器・技術を駆使した発信力ある先鋭的なサウンドライブを開催する。
	YCAM 長期展示連続シリーズ scopic measure	1) scopic measure#11 3月5日~5月6日 2) scopic measure #12 3月5日~5月6日 3) scopic measure#13 9月17日~11月13日 4) scopic measure #14 12月4日~3月	コンピュータメディアと人間の関係性から生まれてくるアートシーンに注目し、先端情報技術を柔軟に使いこなす、今後期待される若手アーティストの作品やプロジェクトを紹介していくシリーズ。YCAM 館内の展示空間・公共空間において年間を通じて順次展示を入れ替えながら、継続的に紹介していく。

区分	事業名	開催時期	内容
山口情報芸術センター	3 館共同プロデュース：山下残「新作パフォーマンス公演」+関連企画	1月29日(日)	言葉からダンスを発想する、また2次元的なテキストと舞台上の身体を対置させるなど、独自の構造をもった先鋭的な作品を制作してきた山下残を紹介する。 また、関連企画として、山下残によるワークショップや、アフターアワーカフェ等のイベントを実施。アーティストの魅力を多角的に紹介し、市民に身近に感じてもらう。
	ロボット演劇「働く私」・アンドロイド演劇「さようなら」	6月18日(土)・19日(日)	石黒浩研究室(大阪大学&ATR 知能ロボティクス研究所)によって制作された、アンドロイド(ジェミノイド F)、とロボットが演じる演劇作品を同時上演する。ロボット演劇の出発点となった「働く私」と、俳優の顔の動きをリアルタイムでトレースするアンドロイドが出演する「さようなら」の2作。 また、関連企画としてロボット開発者などのゲストを招いて紹介するポスト・レクチャーや主に親子、こども、中高年向けとして、ロボットを身近に体験できる企画を開催する。
	共同研究プロジェクト「フォーサイズ・モジュールーションバンク」	3月	オハイオ大学(アメリカ)が中心となったフォーサイズ・モジュールの研究チームと YCAM が、相互のリサーチについてプレゼンテーションを行ない、ダンスとメディア技術が融合する新たなプラットフォームや方法論についてディスカッションを行なう。
	ボリス・シャルマツ ダンス公演「病める舞姫」	10月10日(月・祝)	世界的に注目の集まる若手演出家、ボリス・シャルマツ振付・出演、フランス映画の代表的女優の一人、ジャンヌ・バリバール出演作。舞踏の始祖、土方巽の舞踏論「病める舞姫」から発想したダンス。舞踏の方法論を学ぶのではなく、そのテキストを自身の身体、舞台空間に投影する形で、舞踏-コンテンポラリーダンスに新たな生命を与えた衝撃作を紹介する。
	佐東利穂子(さとうりほこ)ダンス公演「SHE」	12月11日(日)	勅使川原三郎作品のソリストとして世界各国で活躍する佐東利穂子によるソロ作品。勅使川原による映像、ノイズと静寂、語りと音楽、照明による研ぎ澄まされた空間造形が佐東のダンスと時に一体となり、ときに激しく衝突しながら強烈な美を紡ぎ出していく作品。
	映像で見る世界のダンス 特集 土方巽	9月23日(金)～25日(日)	土方巽振付作品ほか、舞踏作品を数本上映。同時にゲストによるレクチャーを開催予定。
	meet the artist 2011	通年	2011年度のmtaのテーマは「書齋」。パブリックな図書館に対して、プライベートな書齋のイメージを逆手にとり、セミパブリックな空間としての書齋をテーマに、書籍の未来を考察する。具体的には、音声だけの書籍としてオーディオブックに着目し、ミニFM局をYCAM内に設置していく。そのためのサウンドワークショップや対談イベントまたはフィールドレコーディングなどのコンテンツ作り、または、著作権に関する研究会などを通じて、広い視野からの図書館の未来、書籍の未来を考えていく。 最終成果物として、電子書籍又はオーディオブック形式のコンテンツをリリースすることを視野に入れ活動する。

区分	事業名	開催時期	内容
山口情報芸術センター	映画を2回観る会	5月8日(日)、7月23日(土)、3月20日(火)	「映画を観る→それについて語る→同じ作品を見る」という形式で、作品について感想を交換することによって、同じ映画が変化して見えることを体験してもらう事業を実施する。このことにより、作品を鑑賞する楽しみを参加者に体験していただく。
	YCAM オープンラボ	7月・9月に実施 週末(土・日)にオープン 全18回	市民が主体的に「つくる+まなぶ+つながる」ことが出来るサードプレイス(自宅、学校や職場と違う第三の場所)としての文化施設を目指す。大階段上の一面を使い、教育普及スタッフやサポスタが常駐、映像編集やプログラミングなど様々なカリキュラムを提供する。
	Select CINE TECTONICS	通年(年3回を予定)	映画を芸術作品としてとらえ、世界の様々な地域の古典から新作まで、芸術史およびメディア史的視点から、意義のある映画作品を紹介するシリーズ。ドキュメンタリーも含んだ、普段山口では上映される機会がまれな様々な映画作品を、映画作家やテーマ別にセレクトして上映。
	特集上映	通年	映画作家やテーマ別の特集のほか、未公開作品などを特集上映として開催。映画愛好家、映画専攻の学生だけでなく、一般市民などにもむけた幅広い広報も同時に行い、新たな観客の開拓も同時に行う。
	真夏の夜の星空上映会	8月12日(金)~14日(日)	山口の夏の夜の風物詩になりつつある中央公園での野外上映会。
	コミュニティシネマ	通年	市民の皆さんから寄せられたリクエストを中心に、ミニシアター系作品や古い洋画・邦画など山口では上映される機会の少ない様々なジャンルの映画を上映。
	インターラボキャンプ事業	シンポジウム: 8月21日(日)	2008年度に行ったラボキャンプの継続企画。今回は「触覚」をテーマに、慶応義塾大学と連携、2カ年をかけ、リサーチ&ディベロップメントを行う。今年度は中間発表という位置付けでシンポジウムも実施する。
	インターラボ滞在研究事業	通年	YCAM インターラボの研究活動の活性化を図るため、また、世界の優秀な技術者とのつながりをつくるため、年に1人程度数カ月の期間で先端的なテーマをもつ技術者(もしくはアーティスト)を招き、特定のテーマに関して研究活動を行う。
	インターラボ研修生事業	通年	世界中から1人ないしは2人を半年もしくは1年間YCAMに研修生として呼び、共に研究、制作を行う企画。YCAMスタッフの価値観、思考の視野を広げること及び新たな人材発掘を目指す。
YCAM 探検クルーズ	7~9月に1回 2月~3月に1回	YCAMの内部で何がおこなわれていて、そのためにスタッフがどのような仕事をしているのかを参加者に見学してもらう。このとき、YCAMという施設が持つ特徴や、それを使いこなすスタッフの特殊な技能といったものを、「探検」形式で分かりやすくそして楽しく伝えることで、参加者にYCAMがおこなっている活動や、そのコンセプトを深く理解してもらう。	